

令和5年度第2回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日 時

令和5年7月6日（木） 15時00分～

2 開催場所

千葉市役所 5階 L会議室501

3 出席者

（委員）神野委員長、種谷副委員長、関委員、瀬崎委員、高梨委員、廣崎委員、桜井委員

（事務局）小名木生活文化スポーツ部長、市倉文化振興課長、川口文化振興課長補佐、松田文化振興班主査、安藤主任主事、野口主事

4 議 題

- （1）第3次千葉市文化芸術振興計画骨子案について
- （2）第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について
（令和4年度実施状況、令和5年度実施予定）

5 議事の概要

- （1）第3次千葉市文化芸術振興計画骨子案について
第3次千葉市文化芸術振興計画骨子案について意見交換を行った。
- （2）第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について
（令和4年度実施状況、令和5年度実施予定）
第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について意見交換を行った。

6 会議経過

<事務局説明>

【神野委員長】

本日は資料1の基本理念、目指すべき姿、基本目標、施策、重点取組について示されている案について議論いただきます。

資料2については、基本理念と目指すべき姿が整理されたものが示されています。作成の根拠となる千葉市基本計画は今年から実施で、千葉市文化芸術振興マスタープランは長期にわたり計画の根幹を担っていました。

その他の流れとして、文化芸術基本法において、国の文化芸術に対するとらえ方が変わってきており、その内容を踏まえて基本理念も作成されています。

なお、基本理念については、計画の策定ごとに変えるものではなく、原則的に見直しの対象にはならないというものになります。

今回、マスタープランではなかった基本理念を策定し、基本理念を設定した上で、目指すべき姿を語るという構造になっています。

資料3について、注力する視点が4つ示されていて、それに対応する基本目標、施策が示されています。

そして、重点取組として「体制の強化」の必要性が示され、専門組織について検討していくことが提示されています。

【関委員】

市民主体で市民に芸術文化に触れる機会や場所を作ることが書かれていますが、市民の人口と比するとアーティストが圧倒的に少ない気がします。それでは市民への多彩な文化芸術に触れる機会が少なくなってしまうのではと思います。

主な取り組みの「文化芸術事業を総合的に推進する専門組織検討」については、アーツカウンシルの検討ということだと思いますが、アーティストをプロデュースする人や場を与えてくれる人などのアートマネジメントがない中で、市民に積極的に文化芸術に触れてもらうということは、机上の空論のような気がします。アートマネジメントがない中で、市民が文化芸術へ触れる場をどのように用意するのかのプランが見えない印象があります。

【事務局】

千葉市の文化振興で不足している面は多々あります。

紙面上では同時進行で進めていくように見えますが、基本施策に紐づく具体的な事業をどのように計画的に進めていくかで変わってくると思いますので、ご了承いただければと思います。

【神野委員長】

千葉市ゆかりの再定義では、千葉市に生まれた方、住んでいる方に限定せずに千葉市で活動したいという人が千葉を舞台に何かやってみたいという環境を作っていくことにシフトしたという大きな変化があります。

最初、市としては「ゆかり」を土着性の強いイメージでとらえていたことに対しての会議内のご意見を経て、とらえ方を変えていただきました。

その際に、専門的にマネージメントする人材についても、今までは市内で人材育成をしていたが、それでは間に合わないという形で、既に実績のある方や他で経験のある方を千葉市で雇用するような環境という形にシフトしました。そして、それを軸にした体制を作っていくことが必要であると思います。

基本的には、国の動向と千葉市が今まで行ってきたことをプロットしていき、今後は体制強化を重点的にやるということを示していると思います。

【瀬崎委員】

ボランティアという言葉が目立つが、市民がボランティアをしても関わりたいと思う魅力的な公演が千葉で増えていかないと、ボランティアの参加は見込めないので、魅力的な公演を創出する工夫が必要であると思います。

どのような文化芸術が求められているのかを把握し、ニーズにあった質の高い公演を提供することに主体を置く必要があります。クオリティの高いものを提供することにより、市民が、千葉市は文化芸術の価値が高い街だと思えるように、意識を変えていただきたい。

【神野委員長】

ボランティアが、人手不足を補うためのものとして聞こえてしまうというご意見だと思います。

「主体的な」が協調されていますが、先ほどの議論と同様で、同時並行的に行っていくので、現状では市民が主体的に行っていくようなものはまだ育っていないということになると思います。大変であるとは思いますが、千葉市の課題を解決するために必要なことだと思いますので、同時に乗り越えていく必要があると思います。

【事務局】

単純に気軽に楽しいイベントに参加できるだけでなく、質の高い優れた文化芸術に触れることも重要であると考えており、基本施策の中にも入れさせていただいております。

【神野委員長】

千の葉の芸術祭の見浜園で行われたメディアアート展では、ボランティアとして幕張の住民が多数参加し、このような機会を待っていたという意見をいただいた。

現代アートのプロジェクトが地域に歓迎されたのは、土地柄、地域の魅力を生かしたということもあるが、作家と直接触れ合えることが住民により影響を与えるためだと思います。アーティストの個性的な視点に直接触れることによって、その活動をサポートしたくなるという意識が生まれることもあります。

そしてそれが、結果的に地域が盛り上がっていくことにつながるということがメディアアート展であったと思いますので、未来につながるポジティブなものであったと思います。

【廣崎委員】

基本理念を見たときに、市民に頑張ってもらいたいという印象を受け、行政は何をしてもらえるのかわからなかったですが、資料3を見たときに、活動環境の整備等、色々と市が実施することについても記載があったので行政も一緒に進めていく意思がわかりました。

【神野委員長】

今の基本理念だと、市民に任せていると受け取られてしまうということでしょうか。

【廣崎委員】

私の受け取り方では、市民の皆さんに頑張ってもらいたいと受け取れました。

【事務局】

そういう意図はありませんが、「文化芸術を通じて」というところに全てが含まれていて、「文化芸術を通じて」は行政側が主体的に行う事業も多く含まれており、それを通して市民の皆さんに創造性や芸術性が育まれ、多様性を受け入れやすい社会が育まれるということが考えられると思います。

行政主体で書いていたつもりでしたが、見る方からは市民主体ととらえられるということで、表現を変えたほうがよろしいでしょうか。

【神野委員長】

例えば、「文化芸術」を通じてが「文化芸術施策」を通じてなら行政が主体というのが明確になりますが、そうすると硬い印象にはなると思います。

ただ、「文化芸術施策」を通じてでも表現上は問題ないと思います。

【事務局】

誤解を招くようであれば、「文化芸術施策を通じて」に変えても良いと思います。行政主体で実施しますが、大前提として、市民の皆様と共に進めていくという思いもこめられていますので、バランスがとれた表現となると良いと思います。

【関委員】

質の良い芸術を見せる方法として芸術祭があると思いますが、芸術祭を実施することが目標に入っていないんですが、目標に入れない理由などあるのでしょうか。

【事務局】

次の資料に紐づけの1事業として出てきます。

【神野委員長】

事務局としては芸術祭を事業の1つと考えているが、関委員の方では芸術祭というものが、広い概念のところに入ってきてもおかしくはないのではという意見ではないかと思えます。

芸術祭は個々の文化ホールがやっているような事業とは予算・人的規模的にも違い、同列には語れないものだと思いますので、そういう視点もあって良いと思えます。

【高梨委員】

基本目標4の中で、「ボランティアとして携わる市民に」とあるが、市民以外の学生もいたりするので、その意味で、千葉市らしいという解釈の仕方から見ると、市民という記載が気になるので他の表現にしていただけたらと思えます。

【事務局】

市民だけに限定するような表現は差し替えさせていただければと思えます。

【神野委員長】

その他ご意見がありましたら、別途、事務局に意見を伝えていただければと思えます。

<事務局説明>

【神野委員長】

例示として掲載されている、今行われている事業も再検討して、計画にふわしい取組みの質に変えていくということも含まれているという理解でよろしいでしょうか。

新規事業の中では芸術祭が大きなものになると思えますが、ここでは埋没するような見え方になっています。今後計画を公表していく際に、千葉市として芸術祭を前面に打ち出したりはしないのでしょうか。

今回の計画では大きな変化を行おうとしています、重点施策としていろいろある中で、芸術祭が最大の事業でその他にも事業があるという見せ方をするとわかりやすいのではないかと思います。

【事務局】

芸術祭は大きな事業ですが、逆に大きすぎて他の事業が埋没してしまうということがあります、ここの表現は考慮が必要なところがございます。

【廣崎委員】

基本目標2の「拠点の形成」は具体的に各事業のどれになるのでしょうか。

【事務局】

各事業の「文化芸術とまちづくり事業」、「次世代アーティスト支援事業」の2つの新たな事業が具体的には決まっていますが、方向性としては「住民とアーティストが地域の特色を生かした文化芸術活動を共に行える拠点の形成と環境の整備」を後押しできる事業としたいと考えております。

【廣崎委員】

「拠点の形成」は、場所ではなく事業としていうことでしょうか。

【事務局】

どういうものが拠点になるかはまだ決まっていますが、そのような方向性で実施していきたいと考えています。

【神野委員長】

まだ、決まっていないと思いますが、他の事例から考えていくと、千葉市のこのエリアで課題があり、市としては改善したい、魅力を生かしたいというところからエリアが決まって、そのエリアでどのような活動をしていくのか。

そこからアーティストが選定されて市民を巻き込んだ活動をどのようにしていくのかとなり、その際に公民館、使われていない行政の施設、学校など、実際に動き始めて拠点が見えてくるのかと想像します。

【桜井委員】

市民として、拠点に関しての意見ですが、身近な場所での多彩な文化芸術活動ということもありますし、区、町など自分たちが住んでいる場所という、小さいエリアでの事業、活動をもう少し加えていただきたいと思います。

各事業の中で、ベイサイドジャズ、音楽団体補助金、文化センターなど拠点が挙げられている中で、地域の中で気軽に身近で触れやすい芸術文化の例としては、ライブペインティングやストリートライブなどがあると思います。

その地域で散発的、継続的なイベントまでも含まれていると市民としては嬉しいし、ハードルが下がって機会の拡充にもつながっていくと思いました。そして、それを示唆するような文面があるとよいと思いました。

【事務局】

まさに、今のご意見のようなイメージをもって作成しており、基本目標2（1）が今のご意見の内容を含んでいるとご承知おきいただけますと幸いです。

【高梨委員】

基本目標の2、3両方に係ると思いますが、「魅力ある場所」「文化芸術に触れる機会の創出」「美術品のデジタル化」と記載があることについて、まちづくりの景観、規模の小さいもの、日常生活に触れられるものとして、駅のデジタルサイネージの活用や、工事中の囲い堀の活用など、文化施設での実施というハード面ありきとして考えない方が良いと思います。そのような表現も入れてみてはいかがでしょうか。

【神野委員長】

美術館のデジタルアーカイブ化の施策は、研究に資すること、市民が市の文化資料にアクセスできることなども重要ですが、別の活用ができるようになることも必要であると思います。

高梨委員のご意見のように、ニッチな隙間ができた際にデジタルアーカイブを使い、気軽に町のなかで触れることができるように提供できるようにするという視野も持ってほしいので、そのようなニュアンスを含めてはいかがでしょうか。

【瀬崎委員】

上野の地下通路では美術館や音楽会のチラシがデジタルサイネージで見られるようになっています。同様に千葉市がかかわる公演について市民が触れる場所に掲載していくと、文化芸術が活発に行われている町であると市民にも伝わるのではないのでしょうか。

【神野委員長】

情報発信というところでは、市の広報物だよりという実情があるので、新しい技術を用いた情報発信もできるように含みを持たせるとよいと思います。スマートな形で、日常的に情報やコンテンツに触れることができるような形ができると面白いし意味があると思います。

【関委員】

基本目標4の「将来の活躍が期待できるアーティストに飛躍する機会の提供」は、作品を作る人をアーティストとするならば作品の発表をする機会を与えるということならイメージはつくが、「飛躍する」という表現がピンとこないです。

【神野委員長】

千葉市がこう書いたのは、単に発表する機会を与えるだけでなく、千葉市が世界に飛躍するところまでやるという覚悟を意味しているのではないのでしょうか。

【事務局】

新人賞が顕彰という側面がありますのでそのような記載となっておりますが、シンプル

に言えば、発表する機会という形になります。

【瀬崎委員】

新人賞があるので、若者に特化した形で明記されていますが、賞をとったあとの継続したサポートがないので、そこをサポートすれば市が潤うような芸術活動がおりにくるように思います。

新人賞受賞者の今後の活躍に繋がるイベントを作っていただくのがよいと思います。地域貢献の集客イベントだけでなく、本来的な成長に繋がるイベントで本当に芸術を磨ける機会をサポートしていただけるとありがたいと思います。

【神野委員長】

新人賞に関しては、受賞した人のサポートは短期的なところとなっていますが、長期的な視野のサポートは考えていますか。

【事務局】

長期的な視野のサポートは必要だと思っています。ここに記載されているのは、あくまで今ある事業を列挙しているだけでして、今後、文化芸術の体制の強化を図った際に、継続的な支援、専門的な支援の強化を実施したいと思います。ここに書いてあることが全てではないということをご承知おきいただきたく思います。

【桜井委員】

長期的な視野でサポートを続けるという市からのご提案がありましたが、基本目標4の(1)に「相談窓口の設置」について詳しい話を伺いたいです。相談窓口という構えているところにアーティストが出向く必要があり、市役所という体制を感じてしまいます。

育成に関して言えば、新人賞を受賞した方のメンタル面でのサポートも必要なのではないかと思います。スポーツ界ではそのような形で進められていますし、その人となりに合わせて市が並走してサポートし、その結果アーティストとして高められ、飛躍できると考えます。相談窓口では、相互的な関係性を構築してほしいと思います。

【神野委員長】

例えば、Jリーグの選手をチームがメンタルサポートするというのは、サポートの範囲が見えていて責任もありますが、一方、千葉市が責任をもつアーティストはどこまでなのかという問題が出てくると思います。

窓口の設置という書き方は行政的ではありますが、不特定多数のアーティストが千葉に関わっていて、その人たちが相談にくる状況ではそうせざるを得ないとは思いますが。ただ窓口が相談に応じる内容については、現代的な内容にしていくことが大事であると思います。

【関委員】

専門的な相談窓口という名前ではどうでしょうか。

【神野委員長】

文化を創っていくということに繋がると思います。市のホールや美術館と地元の芸術家との間で、相談に乗ってくれる関係性の構築ができているかどうか重要であると思います。それが個人的な関係性だけでは、不公平がおきうるので、公的な相談窓口ということにはなりますが、最終的には文化として人と人が繋がったり、助けてくれる関係が生まれてくるということが理想であると思います。文言上の表記ではこのような形になっているが、もう少し中身、未来像が伝わる形にしてもらえるとよいと思います。

交流するということもそこに繋がってくると思います。受賞した人、受賞していない人も含めて千葉の文化芸術に関わっている人たちが交流できる空間、機会が今後必要になってくると思いました。

それでは、次の議題の方に進みたいと思います。

【事務局】

今回は骨子案ということになりますので、皆様からいただいたご意見は以降の、素案、原案で反映されていくということも大いにありうるということをご了承いただければと思います。

<事務局説明>

【神野委員長】

ギャラリートークがC評価になっていることについて、事業が中止となったところは、他の事業では評価なしにしているところが多いので、評価なしとしてもいいのではないのでしょうか。

【事務局】

予定60回のところ、46回となっておりますので、自ら厳しい評価としていると想像します。全く実施しなかったものについて、評価なしとしている場合が多いようでございます。

【神野委員長】

イベントの実施を控えるという状況の中で、46回開催しているので、Bという評価で良いのではないかと思います。

【事務局】

この評価に関することにつきましては再度確認をさせていただければと思います。

【神野委員長】

新人賞はA評価ですが、これは応募件数をもって評価したということでしょうか。

【関委員】

何か件数が増加した理由はあるのでしょうか。

【事務局】

新人賞は賞金額を、新人賞50万円最大1名、奨励賞は今まで賞金がなかったのですが10万円最大4名という形に変更しています。ハードルの高いものと低いものを準備しています。

【神野委員長】

C評価を取ったものは今後何か対策などを行うのでしょうか。

【事務局】

文化振興課所管のものについては、見直しを図っていく必要がございますし、選定評価委員会などでも同様に見直しの対象となる可能性がございます。

【瀬崎委員】

アウトリーチ事業について、アーティストが希望したところにアウトリーチとして行くことができないので、母校に行けるような事業があれば、地域での知名度も上がりますし、地域に貢献したい気持ちがより芽生えやすく、やる気にも繋がるのではないかと思います。

【神野委員長】

派遣事業を新人賞と結びつけることで、単なる発表の機会ではなく、地元との結びつきの形成にもつながるというご意見であったと思います。

現状のコロナという特殊な状況の中の評価ですので、戻りつつある次年度以降の評価に期待していきたいと思います。